

景気は横ばいで推移、先行きも慎重な見方が続く

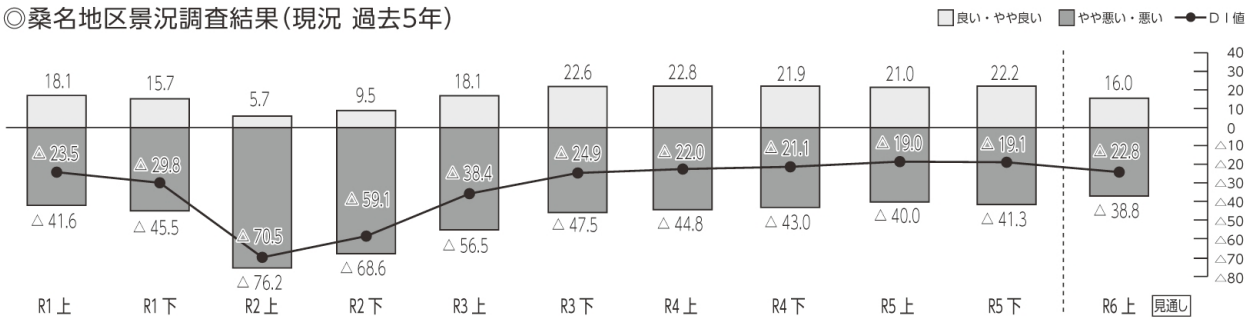
当所では、毎年2回、会員事業所（金融保険業を除く）を対象に景況調査を実施しています。このほど令和5年下期景況調査の概要結果をまとめましたので報告いたします。なお、詳細は当所ホームページに掲載していますのでご覧ください。

調査の概要

調査期間	12月19日～2024年1月12日
対象事業所数	1,748社
回答事業所数	518社(回答率29.6%)
調査方法	郵送によるアンケート方式

※DI値とは「良い・やや良い(増加)」-「やや悪い・悪い(減少)」の差を言います

◎桑名地区景況調査結果(現況 過去5年)



景気の現状と今後の見通し

今回の調査では景気の現状について、「良い・やや良い」との回答が22.2%、「やや悪い・悪い」が41.3%で現状判断DI値は▲19.1となった。前期調査（▲19.0）と比べると0.1ポイントの悪化で、ほぼ変化はなく引き続き低水準にとどまる結果となった。

前期調査時の今後の景況見通しDI値は▲21.5であったため、見通しより2.4ポイント上回る結果となった。一方で、売上状況▲14.7%（前期▲12.7%）、利益状況▲24.6%（前期▲21.2%）についてともに悪化状況にあり引き続き

厳しい状況が続いている。

今後の見通しについては「良い・やや良い」との回答が16.0%、「やや悪い・悪い」が28.8%で、見通しDI値は▲22.8となった。現状DI値▲19.1と比較すると3.7ポイントの悪化見通しとなっている。なお、業種別では飲食業が唯一、現状・見通しともにプラス圏内で推移しており、DI値は12.4ポイントで他業種よりも高く、新型コロナウイルス感染症の法的な取扱いが第5類へ移行したこと等がきっかけとなり、需要が回復していることが窺える。

経営上困っている問題(3項目選択)

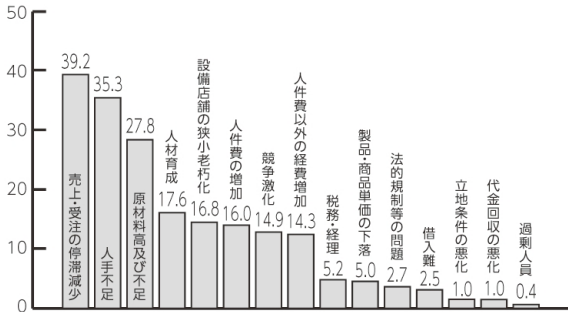
経営上困っている問題については、「売上・受注の停滞減少」の回答が39.2%（前期37.2%）と引き続き第1位となった。第2位は「人手不足」35.3%（前期29.3%）、第3位に「原材料高及び不足」27.8%（前期34.9%）と続き、前期と比べ2位と3位が入れ替わった。

原材料価格高騰の状況は続いているものの、直面する課題として人手不足がより顕在化したものと思われる。

項目別にみると「売上・受注の停滞減少」は製造業・卸売業・小売業で第1位となっているほか、「人手不足」は建設業・交通運輸業に加えて今期からサービス業、飲食業でも第1位となった。

「人件費の増加」「人件費以外の経費の増加」といった回答も多い状況であり、経費全般の高止まりも負担となっている状況が窺える。

◎経営上困っている問題



◎経営上困っている問題(業種別) ()内は前期数値、※は同率順位

	第1位	第2位	第3位
製造業	売上・受注の停滞減少 52.0%(43.2%)	原材料高及び不足 30.3%(43.2%)	人手不足 26.3%(19.8%)
建設業	人手不足 50.5%(49.4%)	原材料高及び不足 41.9%(44.4%)	売上・受注の停滞減少 36.6%(29.6%)
卸売業	売上・受注の停滞減少 30.8%(53.3%)	人材育成 28.2%(20.0%)	原材料高及び不足 25.6%(30.0%)
小売業	売上・受注の停滞減少 58.0%(47.8%)	人手不足 ※26.1%(23.2%)	原材料高及び不足 ※26.1%(31.9%)
飲食業	人手不足 45.8%(33.3%)	原材料高及び不足 41.7%(61.1%)	人件費の増加 37.5%(38.9%)
サービス業	人手不足 34.0%(23.3%)	売上・受注の停滞減少 24.7%(32.2%)	設備店舗の狭小老朽化 21.6%(21.1%)
交通運輸業	人手不足 69.2%(50.0%)	人件費以外の経費増加 38.5%(14.3%)	売上・受注の停滞減少 ※30.8%(35.7%) 人材育成 ※30.8%(14.3%)